

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月15日～8月21日)

2022年12月13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領はインド独立記念日及び韓国・光復節に寄せて祝電を発出(8月15日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●インド独立記念日に寄せたムルム・インド大統領宛祝電

大統領は要旨以下を述べた。

・貴国は、独自の文化、いにしえからの豊かな歴史、特殊な経緯での建国と発展、膨大な人的潜在性を有する独特な国家であり、世界で最も大きな国の一つ。効果的な社会・経済路線と建設的な外交政策のおかげで、インド政府は今や、グローバル社会における際立った極となっている。

・インドとの関係が友好的な性質のものであることがベラルーシでは高く評価されている。我々としては、産業、機械製造業、農業、製薬業、学術・教育等の分野における互恵的な協力関係の増進に関心がある。あらゆる分野に関する両国間の対話が、今後実りある仕方で進むことを期待。

(8月15日 大統領府)

●光復節に寄せたユン・ソンニョル(尹錫悦)韓国大統領宛祝電

大統領は要旨以下を述べた。

・韓国との経済及び科学技術分野における協力を今後も進めること、さらには人的交流の拡大、学術や実業といった分野での知見の共有に、ベラルーシは関心がある。

・相互に政治的な意思があれば、ベラルーシ・韓国関係を質的に新たな水準へと引き上げることができる。

(8月15日 大統領府)

●ミンスク市テクノパークの視察

・ラドゥチコ総裁はルカシェンコ大統領に、国営二輪車メーカー「モトヴェロ」のオートバイの新モデルを説明。

・ルカシェンコ大統領が、同モデルで使用されている

国産品の割合を尋ねたところ、設計や組立はベラルーシで行っているものの、コンポーネントは中国からの輸入品であることが判明。大統領は、「つまり、自国製品がないということではないか」と不満を露わにし、同総裁は引退して若い世代の者と交代するよう指示。

・後刻、ラドゥチコ氏の「懺悔」の動画が SNS に投稿され、同氏は「大統領による批判は、批判ではなく親の言葉である。親の言葉は批判より強い。父の言うことは聞かねばならず、父の教えというものは実行しなければならぬ」と述べた。

(8月15日 大統領府、「我らの家(ナシャ・ニヴァ)」)

●高官人事

・ピョートル・パルホムチク副首相(前産業大臣)

・ユーリー・ナザロフ大統領官房長(前副首相)

(8月16日 大統領府)

【外交】

●ルイバコフ国連大使とグテーレス国連事務総長の会談

・ベラルーシとして、ライアンエアー機強制着陸事件に関する国際民間航空機関(ICAO)による調査報告書を受け入れられないことを伝達し、本件に関するベラルーシの立場を説明。

・制裁に伴う国際的な食糧安全保障への影響についても協議。

(8月15日 外務省)

【内政】

●8月19日現在の政治犯の数は1,303人

(8月19日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●ベラルーシ領からウクライナ・ジトーミル州の航空基地にミサイル攻撃(8月16日)

(8月16日、17日 ブネチコ同州方面隊司令 Telegram、ウクライナ軍参謀本部 Facebook、BPN)

●フレニン国防大臣は、第10回モスクワ国際安全保障会議に出席

同大臣は、ウクライナにおけるロシアの軍事行動をベラルーシが支持していることに関し、ベラルーシに対する軍事侵攻の脅威を予防措置である旨発言。

(8月16日 国防省、BPN)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(8月15日～21日)

- ・リトアニア国境警備局は316人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は65人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は182人を阻止。

(8月16日～22日 BPN)

【経済】

●制裁対象企業出身者による航空会社の設立

- ・民間の貨物航空会社「Belcanto Airlines」が設立。
- ・設立メンバーは、欧米の制裁対象となっている航空会社「トランス・アヴィア・エクスポート」の出身者。

(8月15日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ヤロシェヴィチ経済次官：給与の伸びは物価上昇率に対し99.6%

ヤロシェヴィチ次官は要旨以下を述べた。

- ・この状況は、2022年通年の実質賃金において正すことができる。
- ・政府は、食料品だけでなく、不動産等の他の分野も含めた購買力の増加を狙っており、消費を刺激するための追加策を作成予定。

(8月15日 経済省)

●ジャ駐ベラルーシ・インド大使：ベラルーシからの肥料調達にあたっては、輸送と決済が主な問題

ジャ大使は、ミンスクでの記者会見で要旨以下を述べた。

・ベラルーシからインドへの輸入で最も多いのが、カリ肥料。次いで窒素肥料。タイヤの原材料や鉄鋼製品も輸入。

・インドからベラルーシには、医薬品、たばこ製品の原材料やたばこ加工品、綿糸、変圧器、茶、コーヒー、米、ナイロン製品等を主に輸出。

・インド企業にとってはベラルーシ市場は極めて小さく、ベラルーシとの協力への関心が低い。そのため、インド企業に対し、ベラルーシをより大きな市場に乗り出すための拠点とできることを強調している。

・ベラルーシからの肥料調達にあたり、どうやって支払いを行うかが問題となっている。本件に関し、インド・ベラルーシ両国政府間でも交渉を継続。

・また、従来利用していたリトアニアのクライペダ港から肥料の積み出しが制裁に伴って不可能となっているため、ベラルーシ政府が代替輸送ルートを模索中。

・現状は、COVID-19やウクライナでの戦争という困難があるが、状況が改善した後、インドからベラルーシに観光客を誘致するため、ハリウッドに映画の撮影をベラルーシで行うよう働きかけてはどうか。

(8月16日 国営ベルタ通信、BPN)

●ロシアからベラルーシへの買い物客の増加

・ロシアからベラルーシへの買い物客が増加。背景には、対露制裁によってロシアから撤退した西側ブランドがベラルーシでは依然として営業を続けていること、ベラルーシでの販売価格がロシアのそれよりも20%～30%安いこと等がある。

・「ロシア旅行業協会(ATOR)」によれば、ベラルーシにおいてロシアのクレジットカード「ミール」で決済する場合、ベラルーシ国立銀行(中央銀行)の特恵レートが適用される。また、ベラルーシの銀行でのVisaまたはMastercardの口座開設を含むベラルーシ行き買い物ツアーを準備中の旅行社もある。

(8月18日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ヤロシェヴィチ経済次官：対露・対中貿易の伸びにより、ウクライナ・欧州向け輸出の喪失の80%をカバー
ヤロシェヴィチ次官は要旨以下を述べた。

・2022 年上半期に、西側「非友好国」及びウクライナ向け輸出は 250 億ドル落ち込み。しかし、その 80%を対露・対中輸出がカバー。

・2021 年の対中貿易は 51 億ドルの新記録を達成しており、2022 年上半期の対中輸出は前年同期比 1.8 倍の 7 億 7,000 万ドル。中国企業が参加する 50 以上の投資プロジェクトが実施中であり、ベラルーシ企業 200 社以上が中国に登録済ないし中国市場に進出予定。

・ロシアでは、ベラルーシ・ロシア両国共同での輸入代替の取り組みにより、110 億ドル以上の可能性あり。西側企業のロシアからの撤退に伴い、家具製造や製靴、服飾、宝飾品等の市場を狙うことができる。

・貿易黒字は過去最高の 23 億ドル。

・主要企業は順調に業績を伸ばしており、市場任せではなく、大統領レベルで機敏に政府からの支援が行われている。

(8 月 17 日 国営「共和国」紙、BPN)

●リトアニア税関は、ベラルーシから露カリニングラード州向けに密輸されていた 2 万 6,500 箱のたばこ(9 万 5,000 ユーロ相当)を押収

(8 月 17 日 リトアニア税関、BPN)

●2022 年上半期の商品及びサービスの貿易の実績

(1) 全体 402 億ドル(前年同期比▲ 5.4%)

輸出 212 億ドル(前年同期比▲ 4.2%)

輸入 189 億ドル(前年同期比▲ 6.8%)

(2) 商品の貿易

輸出 168 億ドル(前年同期比▲ 2.8%)

輸入 167 億ドル(前年同期比▲ 5.5%)

(3) サービスの貿易

輸出 44 億ドル(前年同期比▲ 9.3%)

輸入 22 億ドル(前年同期比▲15.3%)

(8 月 15 日 国立銀行(中央銀行))

●実質賃金の低下

(1)実質可処分所得の推移(8 月 16 日ベラルーシ国家統計委員会)

2022 年 1 月～6 月(前年同期比)

ベラルーシ全国	97.3%
ブレスト州	97.4%
ヴィテプスク州	96.1%
ゴメリ州	97.9%
グロドノ州	97.5%
ミンスク州	96.9%
モギリョフ州	95.5%
ミンスク市	98.0%

(2)2022 年 6 月の名目平均賃金(7 月 24 日ベラルーシ国家統計委員会)

	BYN	USD 相当額	前年 同月比
ベラルーシ全国	1,626.5	601.38	95.8%
ブレスト州	1,414.5	523.00	98.0%
ヴィテプスク州	1,376.3	508.87	96.9%
ゴメリ州	1,456.5	538.53	97.0%
グロドノ州	1,445.0	534.27	98.5%
ミンスク州	1,600.9	591.92	95.4%
モギリョフ州	1,327.4	490.79	95.9%
ミンスク市	2,264.0	837.09	93.8%

(3)2022 年 1 月～6 月の国内総生産(GDP)(7 月 18 日、22 日ベラルーシ国家統計委員会)

	BYN	USD 相当額	前年 同期比
全体	874 億	323 億強	▲ 4.2%
工業生産	813 億	301 億弱	▲ 5.2%
農業生産	90 億	33 億強	▲ 3.0%
小売	320 億	118 億強	▲ 0.4%
卸売	656 億	243 億弱	▲ 14.5%
外食	190 億	70 億強	1.7%

(4)2022 年 1 月～6 月の消費者物価の推移(7 月 22
日ベラルーシ国家統計委員会)

・2021 年 12 月を 100 とした場合

2022 年 1 月	101.53%
〃 2 月	103.12%
〃 3 月	109.36%
〃 4 月	111.08%
〃 5 月	111.88%
〃 6 月	113.14%

・2021 年 6 月を 100 とした場合

2022 年 6 月	117.6%
食料品	119.6%
非食品	119.7%
各種サービス	111.3%

【その他】

●ゴメリ州で採取されたいちご類の一部で、基準値の
14 倍から 17 倍の放射性元素セシウム 137 を検出

(8 月 17 日 非常事態省チヨルノービリ原発事故処理
局、BPN)

(了)